

第1回交流会（Zoom オンライン）のご報告

2021年8月28日（土）13:00～15:30に、Zoomを用いて、記念すべき第1回目の若手の会交流会が開催されました。

北海道、東京、神奈川、名古屋、大阪などから15名の方々（現職教員や教育委員会職員、大学教員、心理職、大学院生など）にご参加いただき、日本学校心理学会第23回大会(福岡大会)でのポスター発表とディスカッションのほか、参加者同士の自由な意見交換を行いました。

充実した研究発表と活発な質疑応答が行われ、参加者の方々より、「アットホームな雰囲気での交流ができて良かった」などといった感想をいただくことができました。

参加者のご感想（一部）

- ・普段、学外の研究者の方と交流する機会がもてず、学会もオンラインになり偶発的な出会いなどもなかなかなく孤独でしたが、今回企画してもらったおかげで、色々な方から自分の研究についてコメントをいただいたり、関心を示してもらえて、これからもこのテーマでがんばろうと思えました。本当にありがとうございました。
- ・先生方のご発表や少人数での交流会は、あたたかい雰囲気の中で、先生方のご意見も聞くことができ大変勉強になりました。これまで関わる機会の少なかった方面の視点からのご意見も多く聞くことができ、もっと詳しくお話を聞きたい、また自分も受け答えをしっかりとできるよう訓練したいという思いが強くなりました。
- ・今日発表のあった研究を見て、自分の研究・実践のテーマとドンピシャリではなくても、同じ学校・教育という現場でのテーマなので、興味を持ちやすく、また活用しやすいと思いました。よって、改めて、学校心理学という枠組みの中での交流が大事だと思いました。

運営委員の総括

- ・2時間半あっという間に過ぎた感じ。幅広い地域の方から参加いただいた。オンラインでの開催がよかったのではないかな。アットホームな交流の場となり、学校心理学会らしさがでたのではないかな。
- ・実践者、教育者と研究者でニーズが異なる可能性がある。研究者はより高度な研究発表の場を求めている可能性が高い。また、実践者、教育者、研究者でそれぞれニーズだけでなく、もっているリソースも異なる。ニーズとリソースのマッチングができる機会になれば、共同研究につながるかもしれない。
- ・参加者それぞれがニーズを持っているので、いくつかの分科会をつくって意見交換してもよいかもしれない。また、学部時代に心理学を専門的に学んでいない参加者もいるため、それを補う取り組みがあってもよいのでは。
- ・事後的な研究発表ではなく、ざっくばらんに自分の研究について話し合える場があるとよさそう。例えば、研究開始前の計画段階で意見を聴く。データの収集した後の今後の方針について意見を聴く、分析方法で困っているときに意見を聴くなど
- ・ポスター発表の時間が20分しかなく、意見交換の時間を長く設定する必要があるのでは。

※参加者のご意見も含めて今後の活動に活かしていきたいと考えております。